

病棟業務における電子カルテ端末を搭載したコンパクトカートの導入効果について

○青井 直樹 藤原 康浩
 佐倉 小百合 國東 ゆかり
(淡路医療センター 薬剤部)

【はじめに】

当院では平成 28 年 12 月より薬剤師常駐病棟、平成 29 年 12 月より薬剤師非常駐病棟にて、医師・看護師等との患者情報の更なる共有化及び業務の効率化を目指し、電子カルテ端末を搭載したコンパクトカート（以下、カート）を使用し、病室及びスタッフステーションで病棟業務を実施している。導入効果を把握するため、常駐病棟におけるカート非使用時と使用時での病棟業務を比較し、看護部へカートの導入に対するアンケート調査を実施した。また、非常駐病棟においてもカートを導入したため、導入前後での病棟業務を比較したので報告する。

【方法】

平成 29 年 4 月 17 日～21 日（カート非使用）と 4 月 24 日～28 日（カート使用）での常駐病棟業務について以下の項目を比較した。①病室とサテライト薬局の往復回数②指導患者数③患者情報収集時間④指導時間⑤指導記録記載時間⑥患者または医療従事者からの質問回数

アンケート調査、対象は常駐病棟看護師 123 名、調査期間は平成 29 年 6 月 12 日～6 月 16 日、調査項目は以下 4 項目とした。①サテライト薬局の認知度②薬剤師のカート使用の認知度③カート導入前後での情報共有・提供の変化④今後のカート使用の継続

平成 29 年 8 月 1 日～平成 29 年 11 月 30 日（カート非使用）と平成 29 年 12 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日（カート使用）での非常駐病棟業務について以下の項目を比較した。①医薬品情報提供件数②医薬品情報相談応需件数

【結果】

常駐病棟でカート導入後、指導患者数の増加（24%）、病室との往復回数の減少（30%）、患者・医療従事者からの質問回数の増加が見られた。アンケート調査結果では、サテライト薬局の場所は 80%が知っており、カートの使用は 97%が知っていた。カート導入後、会話・質問しやすくなったと約 50%が回答し、カート使用の継続を 80%が望んでいる。非常駐病棟では、カートの導入により医薬品情報提供件数の増加（72%）、医薬品情報相談応需件数の増加（50%）がみられた。

【結論】

カートの導入により指導件数の増加、サテライト薬局往復回数が減少したことから、カートの導入は病棟業務の効率化につながったと考える。また、医療従事者から質問回数の増加、医療従事者への医薬品情報提供の増加から、カートの導入は常駐病棟・非常駐病棟において患者情報及び医薬品情報をより共有することができ、病棟業務の質の向上へつながったと考える。